

(様式1)

視 察 報 告 書

令和6年6月11日

鳥取市議会議長 西村 紳一郎 様

鳥取市議会文教経済委員会
委員長 浅野 博文

本委員会は、下記のとおり委員を派遣し、行政視察（調査）を実施したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

1 期 間	令和6年5月13日から令和6年5月15日まで
2 派遣先 及び視察 (調査)内容	<カシオ計算機株式会社> ○カシオ計算機株式会社におけるSDGsの取組について <神奈川県三浦市> ○海業の取組について（三崎港「うらり」について） <国立特別支援教育総合研究所> ○インクルーシブ教育システムの推進について、施設見学（教材、支援機器等） <東京都荒川区> ○区立図書館の取組について ・荒川区豊かな心を育む読書のまちづくり条例について ・ゆいの森あらかわについて ・オーダーメイドブックサービスについて <経済産業省> ○グリーントランスフォーメーションの推進について（カーボンプライシングについて）
3 派遣委員 の氏名	浅野 博文、金田 靖典、中山 明保、加嶋 辰史、 米村 京子、吉野 恭介、石田憲太郎、岡田 信俊
4 委員会所見	別添のとおり
5 参加者所見	別紙のとおり

<p style="text-align: center;">カシオ計算機株式会社</p>	<p>○カシオ計算機株式会社におけるSDGsの取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて大企業の本社を訪問し、社内教育に力を入れるとともに、社会貢献活動に積極的に取り組んでおり、世界的な企業としての大きな役割を果たされていることに感銘を受けた。カシオ計算機と鳥取市との官民連携が図られるよう願う。 ・今、企業にとってSDGsの取組なくして存続はありえない時代となっている。すでに学生時代にSDGsを学んで社会人となってきている若者には当たり前のことであり、他人を思いやれる企業人の育成、社会課題解決の新規事業創造力の育成が求められているとあってよい。一番困難な目標であるScope3の達成に向け、一人一人の意識の変革が必要であり、私自身がSDGsの行動が当たり前にできるようにならねばと感じた。 ・高い目標を掲げ、全社一体で取り組まれている姿勢は高く評価するものであり、企業や自治体も習うべきである。目標数値が高すぎるのではないかとも思うが、今後とも報告等を重視し参考にさせていただきながら確認しながら取り組むべきと感じた。 ・カシオという会社がどこで生まれ、どこに向かっていこうとしているのか、そして今どういう立場にいるのかということに従業員に考える環境を整えている。そのことが若手従業員に会社への帰属意識を芽生えさせ、愛社精神の高揚につながると考えているようだった。鳥取市も歴史を地域資源として大切に残し、さらに積み上げていくよう意識を整えることが大切であると考えている。そのために常に変わり続ける努力(=サステナビリティ経営)をしていきたいと思う。
<p style="text-align: center;">神奈川県 三浦市</p>	<p>○海業の取組について(三崎港「うらり」について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業だけの既存の事業から、時代の変化に即した発展的変容に取り組み、様々な分野の産業と連携した複合産業としての成功は素晴らしい。本市にも複数の漁港があり、地域活性化の産業構造の新たな手法として研究してみる価値はあるのではないかと感じた。 ・三崎はマグロで有名であり、マグロ目当てでの集客があり、観光船も運行されるなど羨ましさも感じる。しかしながら、鳥取市や岩美町(山陰海岸をクルーズする観光船等)を一体として考えた場合、三崎に劣らぬ漁業や観光資源は有していると感じた。いかにしてPRして地元と協力して取り組むかが集客につながると感じた。 ・海業について、既存の事業の発展形態を新しい切り口から捉えたものと言える。漁業と他の産業との融合、事業の複合化による新しい付加価値の創造、地元資本の参加による地域主導型・地域連携型の産業創出がキーワードとして上げられる。 ・三浦市のシビックプライドを忘れないことがまちを活性化させるエネルギーだということを若澤社長の言葉より再認識した。

**国立
特別支援教育
総合研究所**

○インクルーシブ教育システムの推進について、施設見学（教材、支援機器等）

- ・施設内には、様々な障がいを持つ子供に対する教育の推進・充実に向け、実際の教材・教具を展示しており、座学を受けた後での、その学習方法や活用の意味について説明をいただき理解を深めることができた。また、これからは社会の側が多様な人々に合わせていくことの重要性を感じる事ができた。
- ・通常の学級における指導・支援の充実に向けた取組や管理職の特別支援教育に係る指導力向上をはじめ、全ての教職員の専門性の向上に向けての取組により、行内支援体制の充実を図るべきであると感じた。併せて、校内支援体制の充実を図るためには特別支援教育主任の資質・技能の向上に向けての取組を行っていく必要がある。
- ・教育現場の先生に対する研修も充実しており、本年度、鳥取市教育委員会からも1名参加されており、インクルーシブ教育システム推進における地域支援事業を実施される予定であると聞きする。こうした取組で鳥取市の地域課題が解決できることを期待したい。本市の特別支援学級の先生や関係者の方にもこの研究機関と繋がってほしいと感じた。
- ・障がいのある幼児・児童・生徒への教育にとどまらず、障がいの有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものと学んだ。鳥取市においても確認していきたい。
- ・研究の効果をさらに出すためには、学校内の時間だけでなく、また先生の負担軽減だけの視点ではなく、家庭や社会が見守り支えていく環境づくりもあわせて大切であると感じ、大人社会全体の取組であり議員の仕事でもあると責任の重さを感じた。

<p style="text-align: center;">東京都 荒川区</p>	<p>○区立図書館の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民の憩いの空間として多くの魅力を持った施設となっている。視察も平日であったが多くの方が利用されていた。本市の公共施設の再編・あり方に関する検討においても大いに参考にすべき施設だと感じた。 ・施設設立後も様々な取組により、内面的にも機能性にも充実させ、さらに可能性を秘めている施設へと成長しているように感じた。都会の真ん中でゆったりと誰もが過ごせる場があることは、この地の求められる文化の質の高さを感じさせる施設だった。 ・区民センターのような機能も併せ持った図書館であるように感じた。今後の鳥取市のコミュニティセンター整備の参考としたい。 ・オーダーメイドブックサービスは、読書文化を拡大普及させるよい仕組みだと感じた。 ・身近な場所に本がある、本に接する環境整備が進んでいるようで、読書活動に関する基本理念を定め、区民が生涯にわたり豊かな心を育む読書のまちづくりを推進する条例を制定している。鳥取市も参考にし、いじめ対策等の1つとして人材育成のテーマに検討してみるべきではと感じた。 ・利用者に配慮した、植物や子どもの遊ぶ施設を併せ持った素晴らしい施設であるが、職員数も多く総工費も巨額なものである。学べるものはあるもののやはり予算規模では勝てない部分があると感じた。
<p style="text-align: center;">経済産業省</p>	<p>○グリーントランスフォーメーションの推進について（カーボンプライシングについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界における日本企業の価値と競争力の引上げには、カーボンニュートラルの取組は待ったなしであり、それは大企業にとどまらず中小企業の取組も引き上げることが重要と言える。本市は主に中小企業が中心であるが、脱炭素が企業経営の重要指針として取り組まなければ、社会的評価が得られず企業の存続が危ぶまれると感じた。 ・排出量取引制度とカーボンクレジット市場のスケジュール感やカーボンクレジット市場の開設についても示されている。成長志向型カーボンプライシング構想について、未知の取組であるが喫緊の課題であり、地球全体で考える最重要課題であることは絶対である。難しい用語についていくのが安易ではないが、取組の必要性を大きな声で広げたい。 ・国も動向を見守っているような様子もあり、他に後れを取らないように情報収集等を進めていきたいと考える。